

入学によせて

～平成30年度入学式式辞より～

理事長・学校長 小林 玉枝



学校法人 小林学園 本庄東高等学校附属中学校

きりぐるま

第58号

春の花咲き匂うこのよき日、第十三回入学式を挙行し、百十二名の新入生を迎えることができました。これまでお子様を慈しみ育てて来られた保護者の皆さまには、心よりお祝いを申し上げますとともに、お子様の夢の実現に向けた歩みのお手伝いが出来ますことを感謝申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとう。今日は大切な出会いの日です。先生方を始め、皆さんのまわりの多くの人は、皆さんのことを知りません。皆さんの中学校生活はこれから新たに始まるのです。その始まりの第一歩が、今日の出会いです。よい出会いをして、充実した学園生活をスタートさせてもらいたいと思います。

では、よい出会いをするためには、どうしたらいいでしょうか。それには、すべての人たちに對して、「素直な心」で接することが大切です。そうすれば、出会いはよいものとなります。人の気持ちは、自分の態度によっても変わります。素直な気持ちで向き合えば、周りの人も皆さんのことを大切にしてくれます。そして、そういう人たちの応援があれば、自分の力をいっそう引き出すことが出来るはずです。皆さんは決して一人ではありません。「素直な心」を持って、自分のまわりの人たちと

たくさんのお話をするようにしましょう。それによって、出会いがより素晴らしいものとなるに違いありません。

また、私たちは、自分のすぐ近くに居る人のことでも、実はあまりよく分かっていないものです。相手の気持ちを想像してみなければ、その人の思っていることは分かりません。毎日の生活の中で、自分のまわりに居る人のことを思ってみるよう心がけましょう。それが人を思いやるということなのです。皆さんには、「素直な心」とともに、「思いやり」の心を持って、まわりの人を大切に出来る人になってもらえるように願っています。

さて、保護者の皆様には、中学生という多感な年頃でもあり、お慶びとともに、一方でご心配も尽きないことと存じます。学園と致しまして、保護者の皆様との連携を密にしつつ、総力を挙げて教育に当たる所存でおります。三年間の学園生活につき、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たり、本日ご臨席を賜りましたご来賓ならびに保護者の皆様に感謝申し上げますとともに、新入生の学園生活が実り多いものとなることを願い、式辞と致します。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。物語の始まりです。皆さんの一人ひとりが主人公です。これから多くの物と出会います。それらが一つずつ形を成したとき、物語は現実となって皆さんを大きく成長させてくれるに違いありません。自信をもって、主人公になりきってください。

物語をリアルにするためには、三つのことが大切です。第一に、その物語が自分の創り出したストーリーであること。自分がこうしたい、こうなりたい、と思いい描いたことを、物語にしてみるのです。他の人のまねではなく、自分だけの物語を創ってみましょう。

第二に、物語の中で出会う人や物、起こる出来事に、いつも真剣に向き合ってください。物語は時間を持っていきます。一つ一つの場面は、次々に展開し、

物語の始まり



教頭 島田 伸一郎

移り変わっていきます。そして、同じ場面は決して繰り返されません。物語の時間は止まりませんが、場面ごとに、自分がなすべきことをしっかりと果たしてください。いつも真剣に向き合うことで、全ての場面が意味あるものになるのです。

第三に、できるだけ多くの登場人物を持つこと。主人公だけで物語を進めていくのは困難です。場面ごとに皆さんの人がいて自分を支えてくれる。困ったときに助けてくれる。同時に、皆さん自身もほかの人の物語に登場し、一緒に泣いたり笑ったりします。

そうして、物語は生き生きとした現実になるのです。

さあ、物語の始まりです。そして、主人公はあなた自身です。

合唱コンクール

三月十日(土)に第十一回校内合唱コンクールを行った。どのクラスも練習の成果が歌声に表れていて、会場をわかせた。

私たちは一ヶ月以上前から、中学最後の行事に向けてクラスで協力して時間を作り練習してきました。私は、指揮者として、絶対良い結果を残せるという自信がありました。なぜなら、楽譜に載っていることをうまくみんなに伝えるために動画をしながら工夫をし、自分も皆も幾度となく反復練習したからです。それでも、いざ自分たちの番になり、クラスを呼ばれると急に緊張がこみ上げてきました。しかし、指揮を振り始め、ピアノから流れる音を聞くと、今までの緊張が徐々になくなり練習通りの合唱をすることができました。そして、待ちに待った結果発表です。「最優秀賞は三年四組」というアナウンスが流れた瞬間、私たちは、嬉しさのあまりガッツポーズをして喜びました。その余韻に浸りながら外に出た後、先生から初の四組優勝と聞いて本当に驚きました。念願の優勝を手にしたこの合唱コンクールは、私にとって忘れられない思い出の一つです。

(風間 涼太)



二年生陶芸体験



二月七日(水)に栃木県の益子で抹茶碗作りを手びねりで体験した。生徒たちは熱心に作品を作り上げ、達成感を得ることができた。

私は陶芸とは伝統文化の一つで高尚なものだと思っただけでしたが、実際に自分で粘土を使ってみると、大変ではありましたがとても身近なものに感じることができました。

自分の手で形を整えた抹茶碗を見たとき、伝統的なものは姿形を変えずに現代でも生きていくと実感しました。早く焼き上がって手元に届き三年生の茶道体験で使う日が待ち遠しいです。(田中 佑弥)

一年生校外研修 キッサニア



二月七日(水)、キッサニア東京での校外研修を行なった。生徒たちは様々な体験を通して働くことについて学んだ。

私はキッサニアで携帯電話会社やピザ屋などの職業体験をしました。特に印象的だったのはロボットのプログラミングです。タブレットで自分が選んだ操作をロボットに送ると、接客を実行するというものです。操作次第でロボットが変化するので機械であっても慎重にする必要があるということを学びました。この研修で学んだことをいかし、将来の職業選択について考えていきたいです。(中村 碧)

一年生茶道体験



二月九日(金)に、二度目の茶道体験を行なった。前回よりも落ち着いた様子で体験ができた。

今回の茶道体験では、お点前する側として参加しました。今までにない緊張感がありましたが、みんなに練り切りやお茶を楽しんでもらえて嬉しかったです。また、先生のお話には、和室での作法など茶道部でも知らないことがたくさんありました。来年にいかせるよう、今後深く学んでいきたいです。(猪俣 真子)